

淡路特産玉ねぎ収穫約7トン！ 販売申込み開始しました！



ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551
ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

おのころの家農作業班では、6月5日から始まった玉ねぎ収穫、約1週間で30アールの畑の収穫作業を行いました。コンテナにいっぱい玉ねぎを入れ畑からつるす小屋に運び、つるしていきます。各作業の担当と責任者を決めてきばきと作業が進んでいきます。

今年2月の植え付けから収穫まで一連の流れを利用者は初めて体験しました。日々草取りばかりの毎日でしたが、収穫時の利用者の顔はやる気満々でした。冬の寒さや夏の暑さに耐え手入れしてきた結果の収穫に、充実感に満ち溢れているように見えました。雨が降りそうだから早くに収穫しなければと利用者から声が上がリ、縫製班と箱折り班も利用者全員で手伝うことになりました。慣れない畑仕事で転んで尻もちをつく利用

おのころの家
社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会

淡路たまねぎ直売！

丹精込めた玉ねぎができました！
美味しく「淡路たまねぎ」をお届けします。

1箱10kg入り 2,000円(消費税込み)
送料 **1,000円**

(全県発送せず、包の大きさ・重さ・お届先住所により異なります。)
○申込期間：平成27年6月～9月

下記の申し込み書でFAXお待ちしております。
FAX-TEL 0799-28-0995
おのころの家農作業班

〒654-0001 洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550 FAX: 0799-25-8551
ホームページ: <http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>



▲まぐろの頭が9つ揃いました



▲ボランティアとも一緒に

7月2日木、ふくろうの郷の隣の地区、厚浜から『厚浜芸能保存会』のみなさまが踊りの披露と七夕飾り作りにお越しになりました。厚浜小唄をはじめとする中川原地域に伝わる唄と踊りを入居者の方々もまねて楽しんでいらっしやいました。こういった体験を通じて地域になじんでいくのかもしれない。

者。でもみんな楽しそうでした。終わりの時間になっても「まだ残っている、これを片付けてから帰ろう」とみんなに声をかける利用者。玉ねぎ栽培がみんなのものになりつつあります。

玉ねぎが終わり次は丹波の黒豆と小豆の植え付けが始まっています。農作業班(6〜8人)は毎日しんどいながら大忙しで働く集団になります。ますます楽しくなっています。

(農作業班 藤崎・中島)

バーベキュー大会

天候が雨天だったのが残念でしたが、大勢のボランティアの方や職員の協力のもと成功させることができました。ありがとうございました。

ピッツェリアふくろう始動！！



のころ屋で作ったピザ生地を使っ
て作ったピザをふるまいました。
宣伝が足りなかったのか、今回の
来客は残念ながらあまりありませ
んでした。

不定期に開催しますが、次回の

開催時には
お知らせ致
しますの
で、是非皆
様お越しし
ください。
売上は、
法人に寄付
予定です。

第19回 全国聴覚言語 障害者福祉研究交流集会 開催要綱

6月13日土曜
日、当法人の労働
組合であるふく
ろう分会の有志
が開く、第一回
「ピッツェリア
ふくろう」が開か
れました。中川原
高齢者・障がい者
地域ふれあいセ
ンターにあるピ
ザ釜を借りて、お

11月21、22日に神戸市勤労会
館で開催されます第19回 全国聴
覚言語障害者福祉研究交流集会の
開催要綱が完成しましたので、一
部を掲載します。

◎主旨

障害者権利条約が批准され2年
半、また障害者差別解消法が来年
施行されます。戦後70年、阪神・
淡路大震災から20年にあたる今
年、第19回全国聴覚言語障害者研
究交流集会は兵庫で開催されま
す。団塊世代の高齢化により介護
予算が増大するため、制度維持を
理由に要支援者の介護保険はずし
が決められました。要介護1、2
の方の施設入居も困難にされまし
た。さらに障害基礎年金など非課
税年金の収入算定により自己負担
増も予定されています。

一方、手話言語条例制定に向けての
運動が盛り上がり言語的排除をはじ
め、聴覚障害者の存在の排除をなくし
ていき、インクルーシブ社会作りにつ
なげることが期待されています。

当事者や事業所等で働く人たちの
実態や要求、そして実践を持ち寄り、
具体的な解決策を探求・提案してゆく
こと、それを掲げた運動を強め広げて
ゆくことが重要です。

本集会では、実践や研究の交流を通
して、①それぞれの事業所における実
践を持ち寄りさらに前に進める。②ろ
う者の生活発達ニーズを掘り起こし、
新たに事業所の創設を進めようとし
ている地域での公的責任に基づく取
り組み。③現在の制度における問題の
提起と福祉予算の確保。
という3つの柱を基に全国のなかま
とともに、重複・高齢聴覚言語障害者
の発達と権利保障の前進に努めます。

◎企画内容

《開会式》

特別講演 「負けへんで！パート1
戦後70年 戦争と人生を語る」淡路
ふくろうの郷 施設長 大矢 暹氏
淡路ふくろうの郷入居者自治会 黒
崎 時安氏 他

《入門講座》

重複聴覚障害者、高齢聴覚障害者の
事例を通して、「聴覚障害」への理解
を深めます。また、初心者向けの講座
です。

講座1 「地域活動支援センターと
は」在宅ろう者のひきこもり・孤立

をなくし、生きがい、くらしづくりへの実
践―地域活動支援センターほほえみ 廣田
しづえ氏

講座2 「聴覚障害者の生活・人生に配慮
のある特別養護老人ホームとは」―介護保
険制度の嵐の中で地域で生き、くらしを創
る―特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの
郷 生活援助員と入居者自治会

講座3 「聴覚障害児デイサービスとは」
―6月から開始した但馬の挑戦―たじま聴
覚障害者センター 児童通所事業所

講座4 「就労継続支援B型とは」―大震
災があらわにした未就学高齢ろう者の支援
を発展させた実践と第6次産業への準備―
おのころの家 支援員と仲間たち

講座5 「ろう者向けのグループホームと
は」―必要性と実践、課題―グループポー
ム やすらぎ 管理者 長井 敬治氏

《実践交流会》

内容 9つの分科会・分散会に分かれて、
施設や作業所、事業所での重複障害者と高
齢聴覚言語障害者への援助実践や研究を持
ち寄り、交流・議論を深めます。また、地
域で暮らす聴覚障害者の福祉ニーズを取り
上げ、専門的援助の必要性を明らかにし、
地域での援助の今後の課題について考え、
提起します。

《閉会全体会》

「負けへんで！パート2だれもが排除され
ないインクルーシブな社会の拠点作りをめ
ざして」鳥取県の3つのセンターづくり
講師 石橋 大吾氏



中村正一様の

ターミナルケアの取り組み

平成21年1月21日より入居されました。入居当初は、意思疎通もはっきりしており、他者との交流も図れていました。しかし次第に認知症の進行と全身機能の低下がみられ、現在では介助を受けながら生活をされています。

平成27年4月6日に嘔血され緊急入院されました。その後、様態が落ち着いたら4月20日に一旦退院し、ふくろうの郷へ戻られました。退院後は、食事が減りつつあったことから食事形態を変え、カロリーの高い食品に変更しています。しかし思うように摂取することができず点滴を開始することとなりました。ドクターの診断で余命は長くないと説明を受けており、家族からの「おだやかに過ごしてほしい」という意向に添いながら、食べられる範囲で食べ、点滴を毎日施行しています。

食事以外の面でも様々なケアを行っています。例えばベッドでは常にエアーマットを使用しています。それでも褥瘡の心配があるため、定期的な体位変換も行っています。また体調を見ながら、週1回特浴へ入浴し、手浴足浴を実施しています。1日の



お姉さんと喫茶を楽しまれる中村さん

流れを看護職員だけでなく介護職員と共にターミナル用紙に記録して共有することを心がけています。普段の様子をしつかり把握しておくことで、小さな変化にもすぐに気づけるようにしています。その他にも時々、お姉様と楽しい時間を過ごされています。そして体調の良い日にはリクライニング車いすで散歩に出かけたり、喫茶などの行事に参加されたりもしています。人生を振り返り、中村さんらしいおだやかな最期を迎えていただけに、支援を続けています。(看護職員)

全国高齢聴覚障害者 福祉施設協議会

6月24日～26日、北海道新得町

平成27年度全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会の総会及び施設長・相談員会議が開催されました。

総会では、平成26年度の事業報告と決算の報告、平成27年度事業計画と予算の提案がありました。また、事務局からは役員の名称について、代表・副代表となっていたものを会長・副会長に改めるという提案がされました。すべての議案について全会一致で採決されました。

また、平成26年7月に厚生労働省に要望書を提出した後の経過について、事務局から報告がありました。

これまで、当協議会は特別養護老人ホームや養護老人ホーム等(北海道・埼玉・京都・大阪・広島・福岡・兵庫の7法人)9施設が加盟し、研修の実施や交流など運動してきました。介護保険制度が要介護1, 2の「入居しめ出し」とも関連してろうあ者、難聴者の在宅介護の事業を拡げてゆくことが大きな課題となっています。

しかし、事業所の孤立やネットワークづくりが課題となっており、事業所間の連携の強化、共同が重要となります。そこで、当協議会として事業所の把握に努め、アンケートを実施することとなりました。その結果をもとに共同できる内容を考えていこうという方向が示されました。

当法人からは、来年8月から補足給付の所得要件に障害年金が勘案されることにより、介護保険負担限度額の2段階から3段階に変更されることによる入居者の負担が増加することに対して、法人減免を利用することになった場合の法人の負担の重さの懸念を報告しました。具体的な方向性を持つことは難しいが、各法人で影響を調査し、情報を交換していくこととなりました。

国の社会保障制度が激変していく中で、高齢聴覚障害者に多大な影響を及ぼすことが予想されます。同じ高齢聴覚障害者を支える法人として、共同して運動を進めていけるか、また、各地域で事業所を立ち上げている方たちと共に共同していくことができるのか、今後の課題となります。

(相談員 竹原)

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

3代続く大工職人の家で生まれ育つ

平成27年4月よりおのこの家に通所されている岡本雅美さん(82歳)は三原郡(現南あわじ市)広田で生まれ育ちました。祖父、父も大工をされていました。岡本さんも中学校を卒業するとすぐにお父さんについて6年ほど腕を磨きました。その後はいくつかの工務店に勤めて50歳の時に独立し、改修工事などを請け負っていました。

突発性難聴 カラオケ三昧の日々から一転

岡本さんはカラオケが得意で特に北島三郎さんの新曲がでると一番にレコード店に行つて購入し、テープが擦り切れるほど練習しました。毎日仕事から帰ると、カラオケ店に通い詰めていました。しかし岡本さんが65歳のころ、

おのこの家への通所を始めて 人との関わりを取り戻す

「突発性難聴」に襲われました。仕事中、2階で作業をしている時に1階の音が聞こえにくいとは思っていたものの病気とは思わずに過ごされていきました。そしていつものようにカラオケで歌っていると店の人が「なんかずれとるで、聞こえてないんちゃうか?」と言われたことが気になって、神戸の病院がいいという評判を聞き受診してみても、1か月も経つてからの受診は手遅れと言われ、毎日通い詰めたカラオケも、その後は遠ざかってしまいました。

「人と関わること
そんな時、2年前に兵庫県の聴覚障害者実態調査でお伺いした際、そういう状況をお聞きし、「おのこの家」の通所をお勧めしました。最初は週に1回の予定でしたが、人と関わることや仕事をする楽しさから、すぐ週5回通所することになりました。奥様も「気持ち前向きになり、家での会話も増えた。生き生きとしてる」と、とても喜ばれています。農業や長年の大工の経験を活かして柵を作ったりと、おのこの家でも頼りにされる存在です。(楠本)



▲おのこの家で柵や机を作る岡本さん。見事な腕前です。

が大好きだった。聞こえにくくなったため会話もスムーズにできず、人の中に入るのが嫌になつてしまつた。福祉制度を知らされず、働いて貯めたお金のかなりを補聴器代につき込んでいた。センターに登録し、福祉制度のことを知りほつとした」と岡本さん。ここ数年は、カラオケや釣りなどの趣味もやめ、人との関わりが少なくなつていきました。

長い人生経験を活かして

そんな時、2年前に兵庫県の聴覚障害者実態調査でお伺いした際、そういう状況をお聞きし、「おのこの家」の通所をお勧めしました。最初は週に1回の予定でしたが、人と関わることや仕事をする楽しさから、すぐ週5回通所することになりました。奥様も「気持ち前向きになり、家での会話も増えた。生き生きとしてる」と、とても喜ばれています。農業や長年の大工の経験を活かして柵を作ったりと、おのこの家でも頼りにされる存在です。(楠本)

難聴者同士の話し合える場が欲しい 移動相談(北淡地区)から

訪問させていただいた山本唯一さんと和美さんご夫妻



何か困ったことはありますか?

旧町単位で家庭訪問を行い、生活状況や健康状態をお聞きしたりセンターの行事をお知らせしたりしています。この日訪問したある難聴の方は「同じような悩みを持つ人が集まつて話をする場がほしい。」という切実な声が聞かれました。又、久しぶりの訪問に笑顔を見せてくださりセンターの行事へのお誘いにもすぐ参加したいと申込みしてくださる方もいました。これからもセンターが地域で暮らす安心拠点として気軽に相談していただければと願っています。(竹内)

第3回社会生活教室 6/7

伝わりやすい文章を考えてみよう。

中川原高師 障がい者ふれあいセンター



講師に淡路ふくろうの郷職員の川満幸子氏を迎え「相手に伝えやすい文章にするにはどうしたらいいか?」を参加者と一緒に考えながら学習を進めました。「用件を書く」「誰から誰に送るのか」「一つの文章は短く」「改行を効果的に使う」などポイントを確認しながら参加者は文章作成に取り組んでおられました。また、参加者からも「てにをは」など文章について学びたいと積極的な意見をたくさんいただきました。

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

何にでも興味を持つ

西端友望さん (21)

おの家の

3月から毎日利用されています。まだ4ヶ月ですが、毎日来られていることもあり、おのこの家にも慣れてきました。

何にでも興味を持ち、意欲的に取り組んでおられます。箱折をしたり、おのこの家の販売にも積極的に参加しておられます。お客様の言われたパンを袋に入れたり、パンを手渡すときにきちんとお礼を言ったりすることから始まっています。販売の回数が増えるごとにきちんとできるようになってきました。今度はどこで販売があるかと予定表を確認し、楽しみにされています。

最近、こたつカバーの刺し子に取り組んでおられます。今、四分の一が終わろうとしています。こたつカバーと作業されています。こたつカバーが終わった後も何か販売につながるものができればと考えています。

(支援員 藤本)

夏に向けて

おのこの家



毎年この時期、梅雨から夏にかけて目標とする売上げに届かない日が多くなります。

元々お店がある商店街を歩いている人の数は少ないのですが、雨が降ったり、暑くなるに益々その姿がまばらになり、お店に立ち寄り下さるお客様の数も減ります。パン・クッキー共に売上が落ちるので、特にクッキーは売れにくくなります。この問題をどのように改善していくのかという事は毎年の課題です。また、移動販売の場でも足を止めて買って下さるお客様の数が少なくなり、持って行ったパンやクッキーをたくさん、持って帰らないといけないという日もあります。お客様からは「このパン美味しい」「このクッキー美味しい」と沢山の声をいただいています。

今後、利用者の人数が増える予定です。利用者の皆さんと一緒に夏に向けてお客様にもっと喜んで頂ける新しい商品を作っていきたいと思っています。

皆様もお近くに来た際には是非お店にお立ち寄り下さい。

(職業指導員 岡本)

安心して暮らしていただくために

デイサービスセンター「桜ヶ丘」

6月15日(月) 県の出前講座で、消費生活センターの奥野さんにお越しいただいて、悪徳商法にひっかからないようにするためのお話をお聞きしました。

事例のDVDを見ながら、

「こんな見てたらおかしいと思うのに、自分も買ってしまうんやな」と。また、お話の合間に「何か言われて買ったことあるけど、何を買ったかも忘れたわ」「磁石のついた布団5万円で買ったことある」「マッサージ器10万円した。買ったことある」と次々と経験談のお話が、ご利用者さんから出てきました。



淡路消費生活センターのパンフレットをいただきました。

みなさん口をそろえて言われたのが「自分はしっかりしてると思ってる」と。また、最後には「若いのがおらんとわからんて言うて断らなあかんな」とのことでした。

お一人暮らしのご利用者さんもおられ、安心して暮らしていただけるように、また今回のような場を設けたいと思っていました。

(竹内)

坂林さんありがとうございます

大矢施設長の紹介で初めてお目にかかったのが淡路ふくろうの郷地域交流会の坂林さんでした。

移居のことで幾度かお会いする度に坂林さんの人柄の良さが。本当に世話好きで思いやりがあり、時には愉快な面も。笑顔が魅力的で温厚な方です。お陰様で長年の傷心が癒され、今は家族のように接していただいております。これからは福祉と農業を通して坂林さんと夢を語り合いながら共に生きていけたらと思います。

(支援員 中島長司)



ふれあい工房 石窯活用

～手話サークル津名～

6月28日(日)に中川原ふれあいセンターのピザ窯を利用させてもらい、サークルの交流会を開きました。おのこの家で新たに販売するという「にんたまジャム」。興味津々でピザのトッピングに使わせてもらいました。

サークルメンバーの感想。

- ・ ニンニクや玉ねぎの独特の臭みも気にならず、さっぱりとした味わいが程よくピザのアクセントになって引き立っていました。
- ・ 他のトッピングに合わせ、今まで味わった事のない風味があり、材料から予想するよりはるかに美味しいピザを頂きました。
- ・ 調味料として色々な料理に使えるので、鶏肉や魚のソテーに合いそう。黒胡椒やパジルで味を調えても美味しいのでは。にんにくが苦手な人も大丈夫だと思います。
- ・ にんにく、生姜、玉ねぎと疲労回復、冷え性、血圧などに効くものばかりで、健康食品としても皆さんにお薦めだと思えます。

(手話サークル津名 平松弘子)



石窯によるピザ工房



ニンたま
ジャム

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

No.12

北岡 肇

◎ 才蔵さんをまつる

三木田の

お地藏さん(その1)

淡路ふくろうの郷の前の道路(市道実高線)を山のほうへ300mほど行った左側の道端、こんもりとした森の中にお堂が建っています。洲本市中川原町三木田地内です。

昔は10坪、33平方mほどの民屋が建っていて庵守りもいましたが、その人が亡くなり建物も古くなつて取り壊し、昭和の年代にコンクリート造りのお堂に建て替えられたものです。

建て物の中には台石とも2段を越す石造りの地藏菩薩が祀られています。台石の正面に「天下泰平、五穀成就、法界萬靈」表には、天明四年(1784)辰年正月、石細工人・江戸屋太兵衛 側面には、「右・いわみち、左・西うらみち」と書かれています。

このお地藏さんは、味地草(郷土誌)に よりますと、「宝暦十年(760)上物部の修

験者が、地獄原で処刑されてから(才蔵さんのこと)日照りや大雨、虫の害が続くので、そのたたりを恐れ供養のため造り建てられた」と書かれています。(田村正著・ふるさと神々と仏たち・洲本編)

地域の皆さんは、このお地藏さんのことを「才蔵地藏」と呼んでいます。そしてお祀りを欠かすことなく、毎年7月23日の地藏盆には、村人たちがこぞって広場で盆おどりも行われていましたが、最近では、お供え物を供えて、才蔵さんの遺徳を偲んで供養が行われています。

才蔵地藏さんのお話はこれまでですが、まだまだお話は続きます。

お地藏さんの前の道をのぼりつめ、少し下った左側の山の小高いところを「地獄原」と言っていました。そしてその下に小さな池があつて罪人を処刑した後、この池で刀を洗い、刀についていた血で赤く染まったことから、この池を「血の池」といっていました(現在は不明)

時は天明2年5月3日百姓農民を苦しめている悪徳家老、商人をこらしめようと百姓一揆(縄騒動)に立ち上がり、お上からのご赦免の届くのが一足遅く才蔵さんは地獄原で露と消えました。

いつもご支援ありがとうございます

淡路ふくろうの郷の書道講座でお世話になりました田中登美子様より、7月8日にご寄付200万円をいただきました。ふくろうの郷と淡路聴覚障害者センターの事業に役立てて欲しいとの田中様のお気持ちをしつかりと生かして参りたいと思います。ありがとうございます。

7月2日、厚浜芸能保存会の皆さまと、踊りと七夕の飾りつけを楽しみました。



自分史出版お知らせ

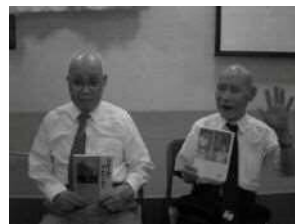
7月4日に「ふくろう学びあい文庫①②完成出版を祝う会」を行いました。花房さん、黒崎さんが生き抜かれた壮絶な人生が集約された自分史の完成に、お世話になった方々や新聞記者など50名が一堂に会しました。

「自分を語る みんなが語る」(花房さん本)は千円、「人生を語る」(黒崎さんDVD)は1500円で、購入いただけます。

申込先・淡路ふくろうの郷

TEL 0799(25)8550

FAX 0799(25)8551



▲自分史を手に取材を受ける花房氏(左)と黒崎氏(右)

作品紹介

6月26日

料理講座



生地からのピザ作りです

竹邊 正晴様(80歳)